

平成 27 年度

美術館教育普及報告書



沖縄県立博物館・美術館

Okinawa Prefectural Museum & Art Museum

入口

Entrance

沖縄県立博物館・美術館

平成 27 年度 美術館教育普及報告書

目 次

- 04 はじめに
- 05 本年度の取組み
- 06 キュレータートーク・学芸員の声
- 07 アーティスト・ギャラリートーク／バックヤードツアー
- 08 美術館ボランティア活動報告
- 09 ボランティアスタッフの声
- 10 バス招聘事業「美術館へ行こう」
- 11 児童の声
- 12 教員向け講座
- 13 ワークショップ／作家の声
- 14 移動展 in 伊是名島
- 15 展覧会関連催事 「二人が撮らえた沖縄・終わらない戦後」
「ミッキーマウスからピクサーまでー」「深海探検 海底 2 万里の世界」
- 16 展覧会関連催事 「石田尚志 涼まく光」
- 17 展覧会関連催事
「大嶺政寛展 情熱の赤瓦 沖縄の原風景を求めて」
- 18 展覧会関連催事 「ニシムイ太陽のキャンバス」
- 20 その他教育普及に関する活動の取組一覧
- 21 実施統計
- 26 さいごに

[はじめに]

平成 19 年 11 月に開館した沖縄県立博物館・美術館は今年で 9 年目に入り、入館者数は 390 万人に達しました。これも県民の皆様をはじめとする県内外の多くの方々の当館に対する期待の表れだと感じており、また、我々の責任の重さを示しています。

本報告書は、平成 27 年度に実施した企画・コレクション展関連催事、学校団対鑑賞プログラム、各種ワークショップ、ワークシート制作、バックヤードツアー、移動展などの幅広い教育普及事業の活動の内容をまとめたものです。殊に、本年度は戦後 70 年でもあり、コレクションギャラリーでの特別企画展「ニシムイ太陽のキャンバス」に関連した取り組みの地域連携劇や音楽会などは、これまでにない新たな価値を発信することができたと考えています。

本報告書が、皆様にとって県立美術館を活用する一助になれば幸いです。

沖縄県立博物館・美術館 館長 安里 進

[本年度の取組み]

本年度の教育普及事業では、従来から取り組んでいる学校との連携を図る鑑賞プログラムである「学校団体対応プログラム」や当館がバスを手配し美術館に招待する「美術館へ行こう」を実施するとともに、学校に出向いて鑑賞の授業を行う「出前授業」を教育普及担当 2人制で取り組み 15回実施することができました。また、新たな鑑賞対応の取り組みとして自治会や P T A などの社会教育団体との連携を図りました。

本年度は戦後 70 年の節目の年でもあり、特別企画展「戦後 70 年特別企画展ニシムイ 太陽のキャンバス」との関連で、シンポジウムやギャラリートークなどの催事に加え、地域の方々と取り組んだ地域連携劇を行いました。大嶺政寛展関連催事として行った渡名喜島での絵画ワークショップは、当館を離れ、渡名喜村教育委員会や渡名喜小中学校の協力のもと実施しました。

本年度は、地域や外部の方々と連携を図った取り組みができ、これからも教育普及事業の足掛かりになったと思います。

キュレータートーク

キュレータートークとは、展覧会を企画した担当学芸員が、作家や作品、展示に関する意図、また開催するにあたり進めてきた調査・研究した内容を語る場である。

観覧者にとって、学芸員の話を聞くことにより「美術作品」への関心を高め、より作品理解を深めることができる。また学芸員にとって、観覧者に展示会がどう伝わったかを知る重要な機会となり、今後の展覧会への向けての情報収集となる。

本年度のコレクションギャラリーでは、戦後70年特別企画展として「ニシムイ 太陽のキャンバス」を行ったが、ニシムイの美術家10名を当館学芸員で分担し展示準備を行い、キュレータートークでは担当した美術家についてトークを行った。



学芸員の声

玉那霸 英人

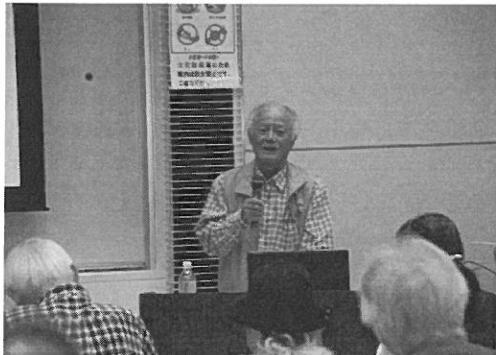
日々、学芸員として調査研究をする中で、作家や作品と関わる機会が多い。キュレータートークは、日々の活動の成果を発表する場であると共に、参加者のみなさんから貴重な情報を得る大切な機会であり、学芸員が作家の言葉や、作品制作の背景を代弁することで、観覧者の鑑賞を深め、気づき、その喜びを分かちあえる貴重な場である。

作家のもとから旅立ち、時空を超えて目の前に存在する作品たちは、無口で何も語ってくれない。しかし、こちらから歩み寄り問い合わせれば、静かに語りはじめる。作品を鑑賞することは、鏡写しのように「他者」との関わりをとおして、自分自身と対峙することなのだろう。作品との出会いは、何気ない日常の喜びに気づかせてくれるきっかけとなる。私は、学芸員として、そのお手伝いができるれば幸いである。

アーティスト・ギャラリートーク

アーティストトーク、ギャラリートークは、作家本人や作家とゆかりのある、あるいは研究している方から話を聞く機会である。

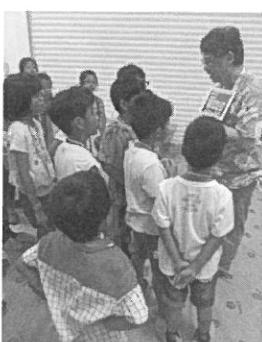
作家自身から作品、制作に関することや思いを直接伺い、ゆかりのある方から作家の人柄や思想、歩んできた人生、客観的な事実や制作スタイル、モチーフの変遷などについて聞くことで、作品や作家に対して、新たな気付きや理解がより深まっていくことに繋がっていく。



バツクヤードツアー

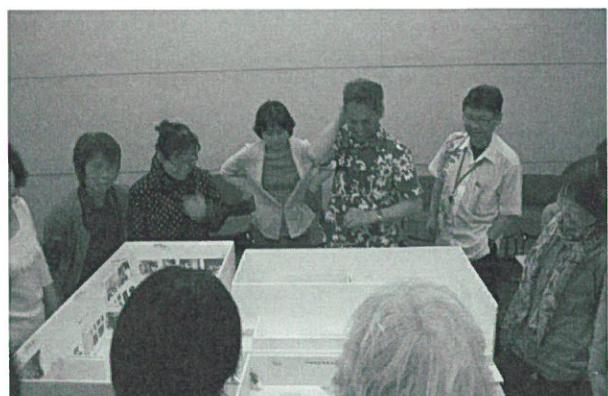
本年度から普段見ることのできない、美術館の裏側への案内だけでなく、コレクション展示室の鑑賞ツアーを導入。裏を知り、表の展示室へ行くとまた違った見え方ができるかもしれない。特に修復室における実際の作業に関する説明は多くの方の関心を惹いている。また夏休みの時期となる8月の開催は親子向けを対象として実施。

- ① 実 施：年4回 土曜日 10:30～12:00
- ② 内 容：普段見ることのできない美術館の裏側を学芸員が案内する
- ③ 定 員：12名



ボランティア活動報告

美術館では、総勢 39 名のボランティアスタッフが 3 つのグループに分かれ活動している。その活動は、学校団体等に向けた「対話を通した鑑賞」を実施するガイドボランティア、ワークショップをサポートするボランティア、美術関連書籍等の資料を整理する資料整理ボランティアと多岐にわたっており、それぞれが特技を活かし美術館の活動を盛り上げている。



ボランティアスタッフの声

普久原律子（美術館ガイドボランティア）

「ごあいさつ」を終え、それぞれのグループに分かれ、いよいよ絵画鑑賞のスタートです。最初の作品に向き合う時がお互いに緊張する一瞬です。でも、子どもたちの自由で素直な感想や発見が緊張をほぐしてくれ、時には一つの物語が出来上がることもあります。作品が変わることに驚きと感動と気づきがあります。また中・高校生は画材や技術的なことにも関心をよせレベルの高い質問等には、担当のスタッフさんに助けを求めます。ガイドとしては反省と学びの日々です。美術館は多くの子どもたちが沖縄の画家や作品を知るきっかけになっています。いま開催中の「ニシムイ展」では作品が一堂にを集められ、戦後史の一端を学ぶ場にもなっています。戦後「美術村」をつくり、諦めず絵を描き続け活躍した画家たちの姿が、美術館を訪れる子どもたちの希望の光となりますように、未来が平和でありますように、切に願います。そして、ミーティングや研修を通して私たちを根気強く指導して下さるスタッフの皆さんにも感謝いたします。

知名友子（美術館ガイドボランティア）

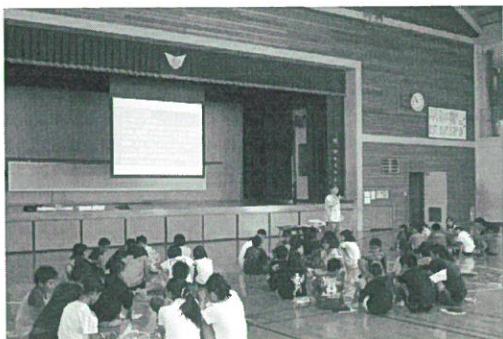
私がボランティアを始めたきっかけは、父が絵を描いていたからでした。美術館は、小さい頃からよく行っていたので馴染みのある場所で、大人になっても美術に興味があり、ボランティアに応募しました。しかし、これまでボランティア経験がなく初めてで少し不安もありましたが、ガイドに向けた勉強会や美術館を知る研修を通し、県内で活動する作家さんとのことも学び、活動ができるまでになりました。また、その中で大切な仲間との出会いもありました。普段は接点のない人生の先輩方と美術に関する貴重なお話をはじめ、いろいろなお話を聞くのが私の楽しみの一つでもあります。

活動では、来館する子供たちと一緒に作品を鑑賞し意見を引き出していくのですが、こちらが思いつかない答えが返ってくることも多く、発見があります。また、子供たちの出身地域によっても感じ方や絵を見る視点も違い、勉強になることが多いです。鑑賞後には、「美術館楽しかった！来て良かった！」と、言ってもらえることがとても嬉しく、やってよかったなって思います！音楽のように、絵や美術がもっと身近な存在になってほしいと願いを込めて、これからもボランティアを続けたいと思います。

バス招聘事業 「美術館へ行こう」

平成 24 年度から、5 カ年計画で国頭地区からスタートした美術館バス招聘事業「美術館へ行こう」。4 年目の今年度は島尻地区の小中学校および特別支援学校、適応教室に対して公募を行った。その結果、10 月から 12 月にかけ 6 校 1 団体（617 人）の児童生徒が美術館に足を運び、作品の鑑賞を楽しんだ。各校とも来館前に事前の出張授業を行い、ティーチャーズキットやアートカードを活用した鑑賞の授業とマナーについて学んだ。当日、児童生徒はガイドボランティアと一緒にコレクションギャラリーを巡り、対話による鑑賞を通して多くの気付きと感動が生まれた。今後の美術館での鑑賞に大きな期待をもたらすきっかけとなりうると推察される。

回	期日	曜日	学校名	学年
1	10月 14 日	水	島尻特別支援学校中学部	2年生
2	10月 20 日	火	豊見城市立豊崎小学校	4年生
3	11月 4 日	水	南城市立船越小学校	4年生
4	11月 26 日	木	豊見城市立伊良波小学校	4年生
5	12月 2 日	水	島尻地区特別支援学級（13 校合同）、適応教室（1）	中学生
6	12月 11 日	金	南風原町立津嘉山小学校	6年生
7	12月 16 日	水	南風原町立津嘉山小学校	5年生



美術館に行ってきての感想文や絵を書きましょう。

中学部 2年 1組 なまえ

わたしは今日美術館に行きました。そしてたくさん絵を見てきました。絵には少し難しい絵もありました。中には少しのしおなあか抜きの絵も書いてありました。ほんとは、皆と一緒にまわりたかったです。
もしもかたな
バスのれて かたぐり

沖縄県立美術館を見学して

船越小学校 4年 1組 名前【】

社会見学では、沖縄県立美術館を見学させていただきました。アトリエのサトさんの描いたおかげで、ふだん見つけることができない新たな発見ができました。例えは、末吉政次さんが描いた「麻鳴」は直角的な色でした。その絵は大切な友達が亡くなってしまったからです。その絵は大切な友達が亡くなってしまったからです。また、太陽のように輝いててもろく支那へ行けるようにとかいたとき、サトさんは教えてくれました。私たちもうすい明らかに悲しみを表していらっしゃいました。安次翁金正さんのかいた「静像」は、翠翠が絵をアトリエで描いていた人たちが



バスを待っている絵だそうですね。色々な色の服を

着ている人たちがいて不思議になりました。私は

小説を見るのが好きで新しいことをしたいけれど、

それが強くなりました。

6年 1組 普 氏名()

★ 美術館見学をしてあなたがいはん心に残った作品について作品の特徴や感じたことをどうぞ書きましょう。

ほくの、心に残った作品は、「盲走路」と言う絵です。絵がところどころきりつけられていよいよ見え、とても斬新で、こよかたです。

★ 美術館見学を終えての感想を書きましょう。

おもしろい作品かい、ほりあ、こ、思てたり以上に楽しめこの絵がまえよりも好きになりました。

美術館に行ってきての感想文や絵を書きましょう。

中学部 2年 1組 なまえ

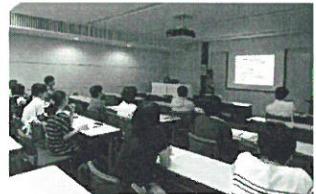


いろいろありました。みんなかわいいですね。

教員向け講座

前半は、美術館副館長、前田比呂也による「21世紀型学力と言語活動について」の講演を行い、その後コレクションギャラリーで特別企画展「ニシムイ」展示作品を使って、授業を想定した対話をとおした鑑賞の実践を小グループに分かれ教育普及担当とともに行った。

後半は、学校教育における図工・美術の授業の新たな方策を検討し、可能性を探るため、小・中・高等学校・特別支援学校の教職員を対象に行った。市民の新たな創作活動の場として日本・世界各地で芽吹き始めているFabLab(ファブラボ)の沖縄での設立に向け取り組んでいる松本安立氏と中西利文氏を講師に招き、ファブラボと図工・美術の授業との効果的な関わり方等をディスカッションしながら探った。



【講 師】 松本安立氏、中西利文氏 (FabLab (ファブラボ))

【日 時】 8月5日 (水) 9:30 ~ 16:30

【会 場】 美術館講座室

【参加者】 小中高等学校・特別支援学校教員 (21人)

【内 容】 ① 「21世紀型学力と言語活動について」(前田比呂也美術館副館長)

② 対話をとおした鑑賞の授業の実践 (教育普及担当)

③ FabLabと学校の図工・美術への活用について (松本安立氏・中西利文氏)

【参加者の声】

- ・校種を越えた交流やワークショップをやりたいです。美術は学校に1人しかおらず、他校はどういう授業をしているのだろう?こんなときはどうしてる?等情報交換できる機会が、今後もいっぱいあるといいなと思いました。
- ・前田先生の学力と美術にできることの話がとても印象的でした。鑑賞のヒントをもらいました。教材にどういったものを選んだら良いか、いつも悩むので、体験しながらできる講座があるとうれしいです。
- ・鑑賞として、力み過ぎず絵を楽しむという点を大切に、子どもたちの発想力、感性を育んでいきたいです。
- ・FabLabの方と、この内容(授業に関する困りごと)を話すことで私たちが得るもののが何なのか先が読めず困惑しました。

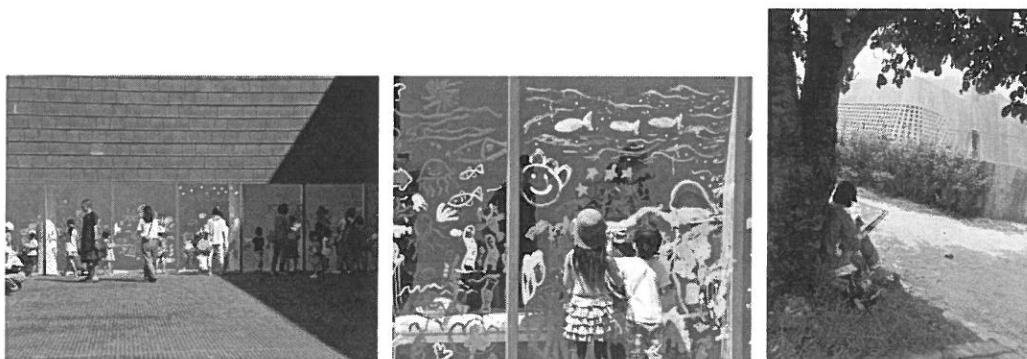
	有意義	適当	不満
「21世紀学力と言語活動について」	87%	13%	—
対話をとおした鑑賞の実践	86%	7%	7%
先進事例の紹介 (FabLab)	33%	50%	13%

ワークショップ

展示と関連させたプログラムを中心を開催。実技講座が主であったが、ニシムイ展においては「キャプションワークショップ」と題して、鑑賞の要素を取り入れたプログラムを試みた。

毎年恒例となった夏の子どもフェスタも「中庭が水族館」も多くの参加があった。子どもから大人まで幅広い層の参加があり、ワークショップの需要性を実感する。

大嶺政寛展の関連催事では渡名喜島で絵画ワークショップを実施。ゆったりとした時間のなかで講師と参加者、どちらも「絵を描く楽しさ」を共有できた。



作家の声

ワークショップ / 講師 屋良朝春 氏

大嶺政寛展の一環として実施されたワークショップ、画伯が描き続けた沖縄の原風景の赤瓦屋根が現在数多く残る渡名喜島で10月17日～18日の2日間実施された。

当日台風で危ぶまれたが、晴天に恵まれたこと、中でも家族揃って、また地元からの参加もあり、和気あいあいのワークショップであった。

渡名喜島集落の風景を目で感じ、心で感じたものを表現して欲しいとアドバイス、島特有の白砂の道より低く、福木に囲まれた赤瓦屋敷がある風景を写生している参加者に、島の人が上手に描けたねと褒めてくれたほほえましい場面もあり、交流の良い機会でもあった。

最後に、作品講評会では、参加者全員が講師のアドバイスを受け、お互いに感想を述べ合ったこと、野外でのスケッチを通して自然に触れて、絵を描く喜びを感じてくれたこと、共に分かち合ったことを嬉しく思っている。

〔 移動展 in 伊是名島 〕



移動展とは、日常的に足を運ぶことが難しい離島の方々へ博物館資料や美術作品を公開する機会を提供する趣旨から、毎年開催している。今回は、人口 1,529 人（平成 27 年 11 月末）の伊是名島で 3 日間に渡り開催した。会場には、伊是名島民や沖縄本島からの観光客が来場した。また、来場者に向けて学芸員によるギャラリートークも実施した。

来場者数

■伊是名村産業支援センター：508 人

9 日（金）／164 人（70 歳以上 9 人、一般 72 名、高大 0 人、小中 67 人、未就学児 16 人）
10 日（土）／157 人（70 歳以上 3 人、一般 73 名、高大 0 人、小中 60 人、未就学児 21 人）
11 日（日）／187 人（70 歳以上 4 人、一般 72 名、高大 0 人、小中 81 人、未就学児 30 人）



報道カメラマン 大城弘明・山城博明 写真展

「二人が撮られた沖縄・終わらない戦後」

【会期：平成27年3月28日（土）～4月19日（日）】

戦後70年企画として、40年以上にわたり沖縄の現状を撮り続けてきた二人の報道カメラマンの写真から沖縄の「今」を考える。本人とゲストを迎えた対談などを開催。

□対談①

【講 師】タイラジュン氏（写真家）、山城博明氏（写真家／本展出展作家）

【日 時】3月29日（日）14：00～15：00

【会 場】企画ギャラリー内

【参加者】70人

□対談②

【講 師】大城藤六氏（沖縄平和学習ガイド）、大城弘明氏（写真家／本展出展作家）

【日 時】4月11日（土）14：00～15：00

【会 場】企画ギャラリー内

【参加者】108人

□キュレータートーク

【講 師】仲里なぎさ（文化の杜共同企業体学芸員）

【日 時】4月18日（土）11：00～12：00

【会 場】企画ギャラリー内

【参加者】31人

◆ディズニー夢と魔法の90年展

—ミッキーマウスからピクサーまで—

【会期：平成27年4月28日（火）～6月28日（日）】

1923年に創業したウォルト・ディズニー・カンパニーがミッキーマウスを誕生させてからおよそ50年後の、ウォルトとその会社に関する史料を収集・保存する「ウォルト・ディズニー・アーカイブス」が設立された。本展はアーカイブス監修のもと、90年間に作り出されたアートや小道具類、コスチューム、模型のほか、セル画やフィギュアなど約800点を一堂に紹介した。

「深海探検 海底2万里の世界」

【会期：平成27年7月17日（火）～8月30日（日）】

「日本絵画はおもしろいー古くて新しい“和の美”ー」開催中止に伴う代替企画として実施した本展は、神秘的な生き物が独特の生態系を築く“深海”について最新の調査、研究成果をわかりやすく紹介。夏休みの時期で多くの子どもたちで賑わった。

石田尚志 潟まく光

【会期：平成 27 年 9 月 18 日（金）～10 月 25 日（日）】

本展覧会は、「絵が動く」という行為そのものに着目し、それを映像メディアによって具現化する、その創作活動が、現代美術と映像の領域で大きな注目を集めている石田尚志。彼が、少年の多感な一時期に自らの意思で訪れた沖縄、そして、その後の創作活動の原点となった沖縄で初となる展覧会を行った。

関連催事として、石田尚志本人によるアーティストトーク、現代美術に詳しい土屋誠一氏を招いた美術講座、横浜美術館で「石田尚志展」を開催したときの担当学芸員の松永真太郎氏と石田氏を迎えてのトークセッション、石田氏とともに、「動く絵」を参加者皆で創作するワークショップを行った。

□ アーティストトーク

【講 師】石田尚志 氏（画家 / 映像作家）

【日 時】9 月 18 日（金）10：00～11：00

【会 場】企画ギャラリー

【参加者】80 人



□ 美術講座

【講 師】土屋誠一 氏（美術批評家／沖縄県立芸術大学准教授）

【日 時】9 月 26 日（土）14：00～15：30

【会 場】美術館講座室

【参加者】32 人

□ キュレータートーク

【講 師】玉那霸英人（美術館主任学芸員）

【日 時】10 月 3 日（土）14：00～15：30

【会 場】美術館講座室

【参加者】18 人

□ トークセッション

【講 師】石田尚志 氏（画家 / 映像作家）、松永真太郎 氏（横浜美術館主任学芸員）

司会進行：玉那霸英人（美術館主任学芸員）

【日 時】10 月 3 日（土）18：00～20：30

【会 場】美術館講座室

【参加者】58 人

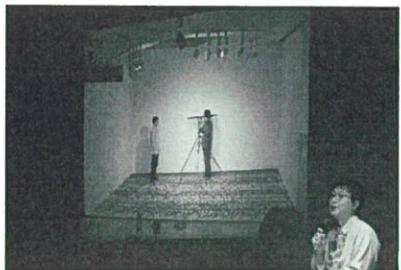
□ ワークショップ

【講 師】石田尚志 氏（画家 / 映像作家）

【日 時】10 月 4 日（日）10：00～13：00

【会 場】県民・子どもアトリエ

【参加者】10 人



「大嶺政寛展 情熱の赤瓦 沖縄の原風景を求めて」

【会期：平成 27 年 11 月 25 日（水）～ 12 月 27 日（日）】

赤瓦屋根を描く画家として知られる大嶺政寛は戦前戦後をとおして、沖縄の原風景を追及した画家である。朱色に輝く赤瓦がたたずむ風景画は古き良き沖縄の心のよりどころとしての絵画空間であると同時に、写実と創作の狭間の中で大嶺自身が作りあげた心象世界の沖縄でもあった。生誕 105 年の本年、大嶺政寛の人物像と絵画の変遷等、その精華を検証した。関連催事として、講師を招いての講演会・シンポジウムやギャラリー・トーク、担当学芸によるキュレータートーク、渡名喜島での絵画ワークショップを行った。

□大嶺政寛展関連 講演会・シンポジウム

第 1 部《講演会》『回想 大嶺画伯と私』

【日 時】11 月 28 日（土）14：00～15：00

【講 師】宮城篤正 氏（元沖縄県立芸術大学学長）

【会 場】講堂

第 2 部《シンポジウム》『風景画と沖縄』

【日 時】11 月 28 日（土）15：10～17：00

【講 師】宮城篤正 氏、稻嶺成祚 氏（画家 / 琉球大学名誉教授）、上原誠勇 氏（画廊沖縄主宰）、コーディネーター仲里安広（美術館主任学芸員）

【会 場】講堂 【参加者】124 人

□キュレータートーク

【日 時】12 月 5 日（土）14：00～15：30

【講 師】仲里安広（美術館主任学芸員）

【会 場】美術館講座室・企画ギャラリー

【参加者】33 人

□ギャラリートーク

【日 時】12 月 12 日（土）14：00～15：30

【講 師】稻嶺成祚 氏（画家 / 琉球大学名誉教授）

【会 場】博物館講座室・美術館企画ギャラリー

【参加者】66 人



□ワークショップ《赤瓦風景を描こう》

【日 時】10 月 17 日（土）～ 18 日（日）

【講 師】屋良朝春 氏（画家）

【会 場】渡嘉敷村多目的活動施設

【参加者】15 人



戦後70年特別企画展 「ニシムイ太陽のキャンバス」 【会期：平成27年6月13日（土）～平成28年3月13日（日）】

戦後間もない1948年頃、那覇市首里儀保に美術家たちが集いニシムイ美術村を形成した。戦争による荒廃した郷土を憂いながらも美術家たちは戦後沖縄の文化や美術の復興に奔走し指導者として多くの功績を残した。戦後70年の今年、改めてニシムイをとおして戦後沖縄の芸術・文化を検証する特別企画展を開催した。

関連催事として、ニシムイ画家と交流のあった関係者を招いてのギャラリー・トークや各担当学芸によるキュレータートーク。関連催事としてシンポジウムや音楽会、ニシムイ画家に焦点を当てた演劇など、その他、様々な取組を行った。

□ニシムイ展関連

シンポジウムⅠ『ニシムイ建設とその背景 VOL.1 語り継ぐもの』

【日時】6月14日（日）13:50～16:30

第1部「二つのアーティスト・ビレッジ」

講師：弘中智子氏（板橋区美術館学芸員）、豊見山愛（美術館主任学芸員）

第2部パネルディスカッション

講師：川島淳氏（那覇市歴史博物館古文書解読員）、仲嶺絵里奈氏（写真史研究所調査研究員）

コーディネーター 豊見山愛（美術館主任学芸員）

【会場】講堂 【参加者】87人

□ピアノ演奏会「ニシムイと音楽のタベ」

【日時】8月8日（土）17:30～19:00

【講師】山元ほるん氏（イタリア国立音楽院作曲専攻在学中）

【会場】講堂 【参加者】136人

□ギャラリートーク①

【日時】7月18日（土）14:00～15:30

【講師】安次富長昭氏（琉球大学名誉教授）

【会場】美術館講座室、コレクションギャラリー 【参加者】36人

□ギャラリートーク②

【日時】7月19日（日）14:00～15:30

【講師】崎山律子氏（フリーアナウンサー）

【会場】美術館講座室、コレクションギャラリー 【参加者】36人

□ギャラリートーク③

【日時】平成28年2月27日（土）14:00～15:30

【講師】岸本一夫氏（デザイナー）

【会場】美術館講座室、コレクションギャラリー 【参加者】22人

□シンポジウムⅡ『ニシムイ画家の絵画と芸術活動』

【日時】11月3日（火）14：00～16：30

【講師】稻嶺成祚氏（画家／琉球大学名誉教授）、岸本一夫氏（デザイナー）
治谷文夫氏（画家）

【会場】講堂 【参加者】68人

□キュレータートーク①

【日時】6月27日（土）14：00～15：30

【講師】仲里安広（玉那覇正吉、安次嶺金正、末吉安久、屋部憲担当学芸員）

【会場】美術館講座室・コレクションギャラリー 【参加者】25人

□キュレータートーク②

【日時】8月22日（土）14：00～15：30

【講師】豊見山愛（コレクションギャラリー1展示、名渡山愛順担当学芸員）

【会場】美術館講座室・コレクションギャラリー 【参加者】28人

□キュレータートーク③

【日時】10月24日（土）14：00～15：30

【講師】仲村保（具志堅以徳担当学芸員）玉那覇英人（金城安太郎担当学芸員）

【会場】美術館講座室・コレクションギャラリー 【参加者】13人

□キュレータートーク④

【日時】平成28年2月27日（土）14：00～15：30

【講師】島筒格（大城皓也、安谷屋正義担当学芸員）

【会場】美術館講座室・コレクションギャラリー 【参加者】12人

□博・美地域連携劇「にしむい 太陽のキャンバス」

【日時】11月8日（日）1回目公演 14：00～ 2回目公演 18：00～

【会場】講堂 【参加者】1回目公演 165人 2回目公演 181人

□にしむい劇上映会＆トーク会『博・美地域連携劇にしむい 太陽のキャンバスを振り返る』

【日時】平成28年3月13日（土）13：00～16：00

【講師】安和朝彦氏（新都心通り会理事）、当山彰一氏（演出家）、
平得永太郎（博・美地域連携実行委員会会長）、他

【会場】講堂 【参加者】34人



その他教育普及に関する活動の取組一覧

その他教育普及に関する活動の取組一覧

1 魅力アップ事業

(1) 著名人コラボ

【講演会】小栗康平監督講演会

【日 時】平成 27 年 12 月 18 日（金） 18：30～12：00

【内 容】ニシムイ展（コレクションガギャラリー 1）で展示している藤田嗣治を主人公に映画を撮った小栗監督による藤田嗣治をめぐる講話。

【参加人数】192 人

【場 所】県立博物館・美術館 講堂



2 若年者向けプロジェクト

【高校生企画第 3 弾】CANVAS

【日 時】平成 28 年 3 月 13 日（日） 16：30～20：00

【内 容】ダンスや個人の主張などのパフォーマンスとテーマを設けた写真投稿などにより、美術館への高校生を中心とした若年層の関心を高めるイベント。

【参加人数】121 人

【場 所】県立博物館・美術館 講堂

3 修復コロシアム I・II

【日 時】コロシアム I 平成 27 年 5 月 9 日（土）・10 日（日）／16 日（土）・17 日（日）

コロシアム II 平成 28 年 2 月 19 日（金）

【内 容】コロシアム I：作品の修復についての説明や洗浄作業についての公開修復

コロシアム II：大城皓也「島の女」についての修復作業の工程説明と終了報告

【講 師】コロシアム I：梶原正史（当館修復担当）

コロシアム II：竹之下磨須子（竹之下工房代表）、梶原正史（当館修復担当）

【場 所】コロシアム I：美術館ホワイエ、コロシアム II：美術館講座室

回	学校名(担当)	期日	回	学校名(担当)	期日
1	渡嘉敷小学校 5・6 年(島筒)	7 月 7 日	9	伊良波小学校 6 年②(仲村)	10 月 27 日
2	渡嘉敷中学校 1・2 年(島筒)	7 月 7 日	10	船越小学校 4 年(島筒)	10 月 30 日
3	沖縄県立ろう学校高等部(島筒)	9 月 17 日	11	津嘉山小学校 6 年(島筒)	11 月 20 日
4	伊良波小学校 6 年①(仲村)	9 月 29 日	12	南風原中学校特支学級(島筒)	11 月 27 日
5	島尻特別支援学校中等部(島筒)	10 月 7 日	13	伊良波中学校特支学級(島筒)	12 月 1 日
6	伊是名小学校 5・6 年(仲村)	10 月 7 日	14	北谷小学校 3 年(島筒)	1 月 8 日
7	伊是名小学校 1～4 年(仲村)	10 月 8 日	15	沖縄県立浦添工業高校(仲村)	1 月 27 日
8	伊是名中学校 1・2 年(島筒)	10 月 8 日			

5 社会教育団体対応

回	団体名	内 容	期 日
1	西原町掛保久自治会（さわふじ友の会）	ニシムイ展出前講座①	5 月 23 日
2	西原町掛保久自治会（さわふじ友の会）	ニシムイ展出前講座②	6 月 4 日
3	西原町掛保久自治会（さわふじ友の会）	ニシムイ展鑑賞対応	6 月 20 日
4	北谷町下勢頭郷友会	ニシムイ展鑑賞対応	8 月 19 日
5	銘苅小 P T C A ① (happ との共催)	ニシムイ展鑑賞+バックヤードツアー	7 月 23 日
6	銘苅小 P T C A ② (happ との共催)	ニシムイ展鑑賞+バックヤードツアー	10 月 15 日

平成 27 年度美術館事業統計報告

教育普及事業

1. キュレーター・トーク（展示会担当学芸員による作品・作家解説 14:00～15:30）

※ 4/18 のみ 11:00～12:00

回	月 日	曜	展示会名	担 当	参加者
1	4月 18日	土	「報道カメラマン大城弘明・山城博明写真展展」関連	仲里なぎさ	31
2	6月 27日	土	ニシムイ展関連① 「ニシムイの画家たち—玉那覇正吉、安次嶺金正、末吉安久、屋部憲の活動」	仲里安広	25
3	8月 22日	土	ニシムイ展関連② 「ニシムイ前夜アーティストビレッジと沖縄の画家」	豊見山愛	28
4	10月 3日	土	「石田尚志 涼まく光」展関連	玉那覇英人	18
5	10月 24日	土	ニシムイ展関連③ 「ニシムイの画家たち—金城安太郎」ニシムイ展関連④ 「ニシムイの画家たち—具志堅以徳」	玉那覇英人 仲村保	13
6	12月 5日	土	「大嶺政寛展」関連	仲里安広	33
7	2月 27日	土	ニシムイ展関連⑤ 「大城皓也、安谷屋正義 モチーフの変遷」	島筒格	12

2. アーティスト（ギャラリー）・トーク

（展示作品制作者又は関係者による作品解説 14:00～15:30）

回	月 日	曜	展示会名	担 当	参加者
1	7月 18日	土	ニシムイ展関連① 「沖縄美術の黎明・ニシムイ美術村」	安次富長昭	36
2	7月 19日	土	ニシムイ展関連② 「私の中のニシムイ」	崎山律子	32
3	9月 18日	土	「石田尚志 涼まく光」展関連	石田尚志	80
4	12月 12日	土	「大嶺政寛展」関連 「芸術のうそ・ほんと」	稻嶺成祚	66
5	2月 27日	土	ニシムイ展関連③ 「ニシムイは今も生きている」	岸本一夫	22

3. ボランティア養成講座（コレクション展に関する内容と鑑賞法の講義 10:00～12:00）

対象：登録ボランティア員

回	月 日	曜	展示会名	担 当
1	4月 22日	水	本年度計画、更新手続き説明	仲村・島筒
2	5月 13日	水	ニシムイ展関連①山元・名渡山の解説	豊見山愛
3	5月 27日	水	ニシムイ展関連②安谷屋・大城の解説	島筒格
4	6月 17日	水	ニシムイ展関連③対話による鑑賞の実践①	仲村・島筒
5	7月 8日	水	ニシムイ展関連④屋部・末吉・玉那覇・安次嶺の解説	仲里安広
6	7月 22日	水	ニシムイ展関連⑤金城・具志堅の解説	玉那覇・仲村
7	8月 12日	水	ニシムイ展関連⑥対話による鑑賞の実践②	仲村・島筒
8	9月 16日	水	ニシムイ展関連⑦対話による鑑賞の実践③	仲村・島筒
9	10月 7日	水	ニシムイ展関連⑦対話による鑑賞の実践④	仲村・島筒

4. 美術講座

(1) 「石田尚志の作品の源流を読む」 32人参加

①日 時：平成 27 年 9 月 26 日（土）14：00～16：00

②内 容：石田尚志の作品の特徴を美術史の流れと関連つけて読み解く

③講 師：土屋誠一（美術批評家／沖縄県立芸術大学准教授）

④場 所：美術館講座室

(2) 「STPI/ どのようにして作品が生まれるのか」 28人参加

①日 時：平成 28 年 2 月 28 日（日）14：00～16：00

②内 容：STPI で行うプロジェクトの紹介と沖縄とシンガポールのアートシーンの紹介

③講 師：小川栄太郎（STPI プロジェクトリーダー）岩崎玉江（STPI）

④場 所：沖縄県立博物館・美術館 美術館講座室

5. ワークショップ

(1) 子どもワークショップ①「キャプションをつくろう」 4人参加

①日 時：平成 27 年 6 月 20 日（土）10：00～12：00

②内 容：ニシムイ展を鑑賞したこと・思ったことをキャプションにする

③講 師：仲村保（当館学芸員）

④場 所：コレクションギャラリー、フォワイエ

(2) 大人ワークショップ①「絵が動く」 10人参加

①日 時：平成 27 年 10 月 4 日（日）10：00～12：30

②内 容：「キネカリグラフィ」という手法を使い、「動く絵」を制作

③講 師：石田尚志（画家／映像作家）

④場 所：県民・こどもアトリエ

(3) 大人ワークショップ②「赤瓦風景を描こう」 15人参加

①日 時：平成 27 年 10 月 17 日（土）18 日（日）

②内 容：赤瓦風景を描く絵画の実技指導

③講 師：屋良朝春（画家）

④場 所：渡名喜村立多目的活動施設

(4) 子どもワークショップ②「ひっかけスクラッチ」 12人参加

①日 時：平成 28 年 2 月 28 日（日）10：00～12：00

②内 容：スクラッチ技法による絵画技法の基礎に触れる

③講 師：山川さやか（画家）

④場 所：博物館実習室

(5) 美術館夏休み子供ワークショップ①「中庭が水族館」 90人参加

①日 時：平成 27 年 8 月 1 日（土） 第 1 回 9：30～10：10 第 2 回 10：20～11：00

②内 容：ガラスに魚などを彩色して水族館にする

③講 師：仲村保、島筒格（当館学芸員）

④対 象：小学生以下（親子同伴）

⑤会 場：美術館中庭

- (6) 美術館夏休み子供ワークショップ②「似顔絵教室」 31人参加
①日 時：平成 27 年 8 月 1 日（土）第 1 回 13：00～14：30 第 2 回 15：00～16：30
②内 容：家族や友人の似顔絵を互いに描き作品にする
③講 師：仲本賢（県立芸大教授）、沖縄県立芸術大学の学生
④対 象：小学生
⑤会 場：県民ギャラリースタジオ
- (7) 美術館夏休み子供ワークショップ③「紙芝居『ニシムイ物語』をつくろう！」 10人参加
①日 時：平成 27 年 8 月 1 日（土）14：00～15：30
②内 容：ニシムイ展に関連し、ニシムイ画家が歩んだ物語の挿絵を描く
③講 師：仲村保（当館学芸員）
④対 象：小学生
⑤会 場：博物館実習室
- (8) 美術館夏休み子供ワークショップ④「写生大会」 20人参加
①日 時：平成 27 年 8 月 2 日（日）9：00～13：00
②内 容：屋外展示場や周辺の公園の風景を講師の指導のもと水彩画を描く
③講 師：屋良朝彦、大城譲、鶴見伸、山川さやか（沖縄県美術家連盟）
④対 象：小学生
⑤会 場：博物館・美術館周辺
- (9) 美術館夏休み子供ワークショップ⑤「キャラクター描き方教室」 27人参加
①日 時：平成 27 年 8 月 2 日（日）14：00～16：00
②内 容：ゆるキャラ等を見本にキャラクターの描き方を学ぶ
③講 師：沖縄県立芸術大学の学生
④対 象：幼稚園児～高校生
⑥会 場：博物館実習室
- (10) 美術館夏休み子供ワークショップ⑥「キッズカメラマン」 17組参加
①日 時：平成 27 年 8 月 2 日（日）14：00～16：00
②内 容：子どもがカメラマンとなり、指導を受けながら家族写真を撮影する
③講 師：沖縄県立芸術大学の学生
④対 象：小学生
⑤会 場：エントランスホール

6. 鑑賞学習支援事業「美術館へ行こう」

- (1) 児童生徒をバスで送迎し、コレクション展示作品を使って鑑賞学習指導を行う ……617人参加
- ① 対 象：島尻地区小中学校、特別支援学校等
 - ② 方 法：公募により学校を決定
 - ③ 場 所：コレクションギャラリー
 - ④ 内 容：鑑賞ボランティアによる鑑賞学習支援

回	月 日	曜	学校名	見学者
1	10月 14日	水	島尻特別支援学校中等部	32
2	10月 20日	火	豊見城市立豊崎小学校（4年）	130
3	11月 4日	水	南城市立船越小学校（4年）	47
4	11月 26日	木	豊見城市立伊良波小学校（6年）	97
5	12月 2日	水	島尻地区中学校特別支援学級（14校）	75
6	12月 11日	金	南風原町立津嘉山小学校（6年）	125
7	12月 16日	水	南風原町立津嘉山小学校（5年）	111

7. 図工・美術担当教職員等講座 22人参加

- ① 日 時：平成 27 年 8 月 5 日（水）9：30～16：30
- ② 内 容：FabLab(ファボラボ / デジタル工作機材) を用いた図工・美術への活用について
- ③ 講 師：松本安立（沖縄新 IT ビジネス創出促進協議会 会長）
- ④ 会 場：美術館講座室

8. 美術館バックヤードツアー

- (1) 内 容：普段観ることのできない美術館の裏側とコレクションギャラリーを教育普及担当学芸員が案内する
- (2) 定 員：12 名
- (3) 時 間：10：30～12：00

回	月 日	参加人数
1	5月 16日	7
2	6月 27日	5
3	8月 22日	11組
4	10月 24日	5

※ 8月 22 日は夏休み親子向けバックヤードツアー

9. 「移動展 in 伊是名島」 508 人入場

- ① 会 期：平成 27 年 10 月 9 日（金）・10 日（土）・11 日（日）（3 日間）
- ② 開催地：伊是名村
- ③ 内 容：立体・映像作品の展示、小・中学校への出前授業

10. 研修対応

(1) 学芸員実習

- ①期 間：平成 27 年 8 月 25 日（火）～9 月 7 日（月）10 日間（土、日を除く）
- ②参加者：3 名（沖縄県立芸術大学 2 名、武蔵野美術大学 1 名）
- ③内 容：保存保管環境、展示方法、絵画、彫刻、写真等作品の取り扱いに関する美術館学芸員業務全般

(2) 校内研修

- ①期 間：平成 27 年 7 月 29 日（水）
- ②参加者：南風原町立津嘉山小学校
- ③内 容：ニシムイ展

(3) 那覇教育事務所教職 10 年経験者研修

- ①期 間：平成 27 年 7 月 29 日（水）
- ②参加者：那覇地区小・中学校教員
- ③内 容：美術館の学校団体受入解説とニシムイ展鑑賞

(4) 島尻地区教頭研修会

- ①期 間：平成 27 年 9 月 4 日（火）
- ②参加者：島尻地区小・中学校教頭
- ③内 容：美術館の学校団体受入解説とニシムイ展鑑賞

(5) 島尻地区校長研修会

- ①期 間：平成 27 年 12 月 11 日（金）
- ②参加者：島尻地区小・中学校校長
- ③内 容：美術館の学校団体受入解説とニシムイ展鑑賞

(6) 久米島地区校長研修会

- ①期 間：平成 28 年 1 月 20 日（水）
- ②参加者：久米島地区小・中学校校長
- ③内 容：美術館の学校団体受入解説とニシムイ展鑑賞

11. 学校団体見学対応 432 人参加

回	月 日	曜	学校名	見学者
1	6月 16 日	火	伊是名村立伊是名小学校（6年）	11
2	9月 30 日	火	沖縄県立沖縄ろう学校高等部（2年）	13
3	10月 21 日	水	オキナワアミークス中学校（1年）	25
4	11月 19 日	木	豊見城市立伊良波小学校（5年）	100
5	11月 19 日	木	尚学院 S I B A	12
6	12月 4 日	金	沖縄大学	8
7	1月 22 日	金	名護市立名護小学校（6年）	110
8	1月 27 日	水	北谷町立北谷小学校（3年）	75
9	1月 29 日	金	沖縄県立浦添工業高校（1年）	78
10	1月 30 日	土	埼玉県立川越工業高校	39

[さいごに]

教育普及活動は、美術館という場を通して、人と人、人と作品、人と他の何かが結び付く機会をつくっていく活動です。その中で、新しい刺激に触発され、自分自身を見つめたり、語ったり、見直したりすることで、新しい自分を発見する一助となり得たなら幸いです。

今年度も、シンポジウムや講演会、トークイベント、ワークショップ等に関わっていただいたアーティストの方々、展覧会関係者、そして美術館を支えているボランティアの皆さま方、たくさんの方々のお力添えのおかげで、このような報告書をまとめることができました。この場を借りて感謝を申し上げます。

平成 27 年度
沖縄県立博物館・美術館
美術館教育普及報告書

2016 年 3 月 31 日

発行
沖縄県立博物館・美術館
沖縄県那覇市おもろまち 3-1-1
Tel.098-941-8200 (代表)

教育普及担当
仲村保 (沖縄県立博物館・美術館)
島筒格 (沖縄県立博物館・美術館)
町田恵美 (文化の杜共同企業体)
大瀬萌子 (文化の杜共同企業体)
宜保はるな (文化の杜共同企業体)

